



令和2年度 公益財団法人櫻谷文庫 事業計画

基本的考え方

櫻谷文庫は、木島櫻谷の居宅である和館、洋館、画室の建造物および櫻谷作品、習作、写生帖等、櫻谷収集の書画書籍類などの収蔵品からなる。また、建造物3棟は、国登録有形文化財、京都市景観重要建造物、京都市指定有形文化財に登録、指定されている。収蔵品については、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての陽明学朱子学関係日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や、近代美術関係資料など一万点以上からなる。建造物、所蔵品の一般公開・展示、収蔵物資料等の調査、整理、データベース化のため、建造物の維持修復、収蔵品等の維持、修復、調査、研究を進める。これらにより、近代建築史、美術・美術史、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。また隣接する学校法人ヴィアートル学園等と連携し、教育活動の推進のため協力、支援をすすめる。

公益目的事業

(1) 2020年春の櫻谷文庫公開展示 ～ 今小路通り沿い連携公開（独自）

「桃の節句」の時期の公開・展示

春の公開は、毎年前年度から新年度への期を越えての開催となるため、令和2年度の4日間の事業計画について記載する。

期間 2020年4月4日（土）～4月12日（日）の土日（4日間）

公益収入 168,000円

（内訳）入場料 600円×70人/日×4日=168,000円

公益支出 167,600円

（内訳）人件費 4日×5人×6,500円=130,000円

事務用品費 11,200円

通信費 12,600円

旅費交通費 7,800円

雑費 6,000円

(2) 2021年春の櫻谷文庫公開展示 ～ 今小路通り沿い連携公開への協力（独自）

「桃の節句」の時期の公開・展示

春の公開は、毎年前年度から新年度への期を越えての開催となるため、令和2年度末までの事業計画について記載する。



期間 2021年3月6日(土)～3月28日(日)の土日祝(8日間)

公益収入 336,000円

(内訳) 入場料 600円×70人/日×8日=336,000円

公益支出 322,700円

(内訳) 人件費 8日×5人×6,500円=260,000円

事務用品費 18,700円

通信費 21,000円

旅費交通費 13,000円

雑費 10,000円

(3) 櫻谷文庫の随時公開1. (独自)

京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業、立命館大学文学部京都学講義、立命館大学アトリサーチセンター、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築造形学部門演習、衣笠小学校社会科見学など教育・研究への協力、併せて京都市MICE推進事務局に連携し、映画、テレビドラマ制作に協力する。

公益収入 120,000円

(内訳) 大学講義演習関係 50,000円 文化財マネージャー育成講座 20,000円 他映像制作協力関係 50,000円

(4) 櫻谷文庫の随時公開2. (独自)

随時公開については、グループ、団体等との時間調整の上実施する。

公益収入 132,000円

(5) 櫻谷文庫 三つ折りリーフレット作成

櫻谷文庫説明三つ折りリーフレットを作成する

数量 20,000枚

公益支出 132,000円

(6) 建築物の修復保全等

(6) -1 洋館修復工事

京都市補助金 7,700,000円

公益支出 7,700,000円

(6) -2 洋館・和館・画室の自動火災警報装置の設置

京都市補助金 4,000,000円

公益支出 1,000,000円

(6) -3 櫻谷文庫 市指定文化財説明版設置

京都市補助金 385,000円

公益支出 21,000円

(7) 地域、美術系、学術教育、メディア連携と櫻谷文庫情報の拡散(独自)



等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区の堂本印象美術館他美術系法人、地域の等持院、真如寺、平野の家わざ永々棟他との連携、京都への来訪者の多い東京での PR 強化のため京都市東京事務所、六本木七丁目の京都アンテナスタジオ「京のお稚児さん」、江東区文化コミュニティ財団、住友財団との連携、京福電鉄、JR 西日本京都交流推進委員会、JR 東海京都・奈良・近江文化情報事務局、京都市観光協会（京都駅観光総合案内所を含む）、京都新聞社、KBS 京都、NHK、フジテレビ他との連携、情報提供を強化する。既存メディアだけでなく Facebook、Twitter 等の活用、継続的情報発信による情報拡散を図る。

(8) 櫻谷文庫収蔵品の調査・整理データベース化（共同）

① 書簡等

数千点以上の書簡類等の整理、調査を終了する。スキャナーでの画像取込み、整理をすすめ成果の公開、展示につなげる。なお、経費の発生を抑えるため、調査、整理については臨時アルバイトを雇用せず、泉屋博古館学芸室実方葉子主査、櫻谷文庫業務執行理事門田節の 2 名で実施する。

② 画材

櫻谷の画材等の調査、分析、膠、顔料、墨、硯など画材類が櫻谷存命中のままの状態で遺されており、京都市立芸術大学の協力で、公益財団法人泉屋博古館との共同での分析、調査をすすめる。調査結果をもとに、現在調査中の書簡類、写生類、古典書類の調査とあわせて国登録有形文化財（美術工芸品）指定を働きかける。

調査結果も含め、2020 年 6 月に開催される文化財保存修復学会第 42 回大会（熊本市）で発表される予定。

「近代日本画に使われた群青の化学組成」

紀芝蓮氏（京都市立芸術大学美術学部）作品調査の結果に加え櫻谷文庫にて再採取した青顔料の XRD や SEM-EDS の結果について、

「大正 3 年京都市立絵画専門学校卒業作品・鄭褰裳（鄭錦）《鸚鵡》に使用された岩絵具」

高林弘美氏（京都市立芸術大学大学院准教授）

京都市立芸術大学の資料館所蔵作品に顔料資料にあったのと同様の絵具が使われておりそれらの調査結果について報告

(10) 櫻谷文庫収蔵品の修復・保全（独自）

(10) -1 収蔵品のうち櫻谷作「烏図」、櫻谷下絵「峡中の秋」および櫻谷収



集品のうち伊藤若冲作「鯉図」を修復する。

京都府補助金 440,000 円

公益支出 440,000 円

(11) 所在不明の櫻谷作品の所在調査

櫻谷後半生の文展、帝展出品作品を 15 年間にわたり連続して購入した小津与右衛門氏所蔵作品の所在について調査を継続する。

(12) 木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する

収益事業等

洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また地域在住者を主な対象とする整美体操教室（講師：井上敦子氏）に旧画室を教室として提供する。

その他の事業として学校法人ヴィアトール学園との連携による教育支援活動を行う。洋画家浜哲郎氏に制作室として提供していた和館の一部について、教育、地域、美術芸術関係の活用を検討する。